

## 十一月度月次祭 理事長お話

「月次祭」、おめでとうございます。

秋入梅の長雨とともに秋も深まり、今年も紅葉の便りが届き始めました。

先般、私共は、聖地・瑞雲郷において、「秋季大祭」を執り行わせていただきましたこと、明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあつて、主神に感謝申し上げたいと存じます。

教主様には、今年もご巡教を含め4度祭典にご出座賜り、み教えの神髄である明主様の全く新しい信仰について、このたびもお心こもるご教導をくださいましたこと、皆さまと共に心から御礼申し上げたいと思います。

先ほどは、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

明主様ご在世当時より長年信仰を続けてこられた〇〇さんは、今、教主様のご教導を通して、「メシヤの御神」<sup>みかみ</sup>「メシアの御名」を奉称させていただけることへの、この上ない感動をご奉告くださいました。

また、〇〇さんは、神様が大きいなる赦しをもって、私共人類全てを神の子たるメシアとして新しく生まれさせるといふ、明主様ご在世中の最後に新しくみ教えくださった本当の「天国の福音」に目覚めた喜びについてもお話しくださいました。

私は、本日の感謝奉告をお聞きし、私共が布教にお使いいただいていることについて、神様が私共をご自身の子供とするために布教してくださっているからこそ、だからこそ私共は、布教にお仕えさせていただけるのだということを、自らに確認させていただきました。

私共も、この「神の子たるメシアの道」を全身全霊にお受けし、この本当の福音を一人でも多くの方にお伝えする「①之光教団の布教」に、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」といふ「想念の御用」をもって、嬉々としてお仕えさせていただきます。

さて、①之光教団では、全ての信徒家庭に「大光明」のご神体奉斎の道が開かれましたが、私は、昨日本部ご神前において、第1回目の「御下付式」に臨ませていただきました。

昨日の「御下付式」に際して、私は、この時機にいただいた「秋季大祭」における教主様のご教導を、しっかり心に刻ませていただかなければならな

いと思わせていただきました。

私は、このたびのご教導を通して、「神の子たるメシアの道」を授かっている人類の一人として、今「メシヤの御神」を奉称させていただけることや、「明主様と共にあるメシアの御名にあって」という言霊を発することができることについて、私自身が弁えておかなければならない大切な姿勢をお示しくださったものと受け止めさせていただきました。

教主様は、「言霊神也」という明主様の御書に触れられ、

言葉の源である主神、すなわち、思いの源である主神によって天地万物一切が創造されました。

ですから、創造されたすべてに、主神の言葉が宿っています。主神の思いが宿っています。

主神の思いは、私ども人類をご自身の子とするということです。これは主神の厳然たるご意志であります。

と、このようにお示しくださいました。

私は、このことを知らずに、また、お知らせいただいてもその真意に気付かずに、言葉や思いのみならず、自らのものと考え違いをしていた魂も、命も、肉体をはじめ万物も、全てを自分の表現のために使ってきたことを心から認識させていただきました。

私は、ご教導を通して、「メシアの御名にある主神の赦し」をお受けしなければならなかった、悔い改めなければならぬ自らの姿の一端に気付かせていただきました。

ですから、私も教主様に倣わせていただき、私が気付かせていただくことを皆さまにお伝えする時には、教主様が仰せのように、主神に対して、

「もし行き過ぎや間違ったところがあればお赦しくくださいますように、また、足りないところがあれば補ってくださいますように」と申し上げ、「わたしの思いでなく、あなたの思いが伝わりますように」

と、このように明主様と共にあるメシアの御名にあって申し上げる姿勢を大切にさせていただかなければと思わせていただきました。

私は、これまで何十年にわたり日々お唱えしてきた「惟神靈幸倍坐せ」という言霊について、神様のみ心のまにまに魂の幸が幾倍にも増しますようにという思いで受け止めておりましたが、魂の幸とは、実は、神様が私を子供

としてくださるといふ幸であり、その神様のご意志を素直に受け止めるようにお示しくださっていた言葉なのではないかと、今思わせていただいております。

また、私は、神様が創造された全てのものに、私共人類を神の子たるメシアとして新しく生まれさせるという主神のご意志が宿っていることをお知らせいただいた今、み教えや浄霊についても同じであると気付かせていただきました。

私は、37年前に1冊のみ教えと出会ったことが入信動機となりましたが、数々のみ教えについて、また、み教えの証しとして受け止めてきた浄霊の奇蹟についても、やはり私は、そこに込められている神様のご意志に気付かず、自らの受け止めをもって使わせていただいていたことを否認しません。

ですから、私は、今、今日までいただいていた全てのみ教えを、そして、日々取り次ぎ、いただいていた浄霊を、教主様が仰せのように神様にお返し申し上げ、新しいみ教えとして、新しい浄霊として、もう一度いただき直さなければならないのではないかと心から思わせていただいております。

明主様は、昭和29年4月19日、突然脳溢血の症状を起こされました。

その後、6月5日に、主だった資格者を熱海の碧雲荘に召集され、『メシヤが生まれたわけです』『生まれ変わるといふんじゃないですね。新しく生まれるわけですね』という御言葉を発せられました。

教主様は、この「メシヤ降誕」「新しく生まれる」ことに関する明主様の御言葉について、先般の大祭の折、

この御言葉を通して、私どもの本質は生まれ変わる存在ではないということ、明主様が新しくみ教えくださった、と私は思えてなりません。

と仰せになり、明主様がみ教えくださった最も大切なこととしてお示しくださっています。

このたびの大祭において、私の心にグサリと突き刺さってきた教主様のお言葉がありました。それは、

昭和29年6月5日の御言葉が今、私どもを救ってくださいました。

というお言葉です。

私は、教主様が仰せのように、命について考える時、死を免れ得ない、必ず死ぬという命しか知りませんでした。

私は今、ご教導を通して、自らのうちに、主神の命に満たされた本当の命である永遠の命が宿っていることに目覚めさせていただき、今日初めに申し上げましたように、主神の命を自らのものにしていたことを知りました。

このたびの大祭において、教主様は次のようにお言葉くださっています。

主神は、明主様を、私どもと同じように、永遠の命に満ち満ちている天国から、死に囚われていた世界である、この地上にお遣わしになりました。

明主様は、私どもと同じように、この地上でのご生涯を送られる中で、私どもの代表として、命をご自分のものとしていたことを悔い改められ、メシアの御名みなにある主神の赦しをお受けになりました。

そして、命の源である天国に立ち返られて、ご自分のものとしていた命、死を免れ得なかった命を主神に捧げられ、改めて主神の命を新しい命、永遠の命としてお受けになり、主神の子たるメシアとしてお生まれになりました。

明主様は、私どものために、過去、現在、未来の人類のために、悔い改められ、メシアの御名にあって赦され、救われたものとして天国に立ち返られて、新しくお生まれになったのです。

明主様は、死を免れ得ない命に囚われていた私ども全人類を救い出すために、新しい命に甦られたのです。

教主様は、このようにご教導くださいました。

私は、明主様が病に苦しんでおられる最中にご発表になられた、昭和29年6月5日の御言葉の中に、死んでいく命に囚われている私共人類を、新しい命、すなわち主神の永遠の命に甦らせてくださった、大変大きな「天国の福音」が示されていることを、明主様の信徒として、教主様のお導きのもと、より一層大切に受け止めさせていただきたいと思っています。

私は、明主様がメシアになられた御言葉としてのみ受け止めてまいりました、昭和29年6月5日の御言葉に、教主様が今、私共信徒を代表して正面から向き合われ、私共を本当の世界救世教の信仰へとお導きくださっているものと固く信じております。

そして、誠に至らない身ではありますが、私は、「明主様の真実」を強く求めておられる教主様のお姿に、少しでも倣わせていただきたいと心に決め

させていただいております。

私は、「私の知らない明主様がいらっしゃる、ことに、謙虚に心に向けさせていただきたいと、今心から思わせていただいております。

教主様は、今年の「新年ご挨拶」の中で、

明主様が今、私どもの中で、「わたしを模範とするように、と訴えていらっしゃるように思えてなりません。

と、お示しく下さいました。

教主補佐は、専従者との懇談会において、「明主様はご晩年に、「私の真似をなさい」というようなことをおっしゃっていた、とお伝えくださっています。

私は、「神の子たるメシアの道、を最後にお示しくくださった明主様を模範として新しく生まれさせていただく全く新しい信仰を外して、世界救世教の信仰は存在し得ないと受け止めさせていただいております。

ですから、私は、「神の子たるメシアとして新しく生まれる道を、全身全霊にお受けさせていただきました、という思いを込めて、全く新しい信仰の象徴である「大光明」のご神体奉斎の営みに、①之光教団の皆さまと共に大いなる感謝と希望をもって、ひた向きにお仕えさせていただきたいと存じます。

本日も、こうしてご一緒に、明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあつて、主神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、今月度の皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。